



図 2.1 エリア及びゾーンに求める機能の林帯幅，樹種，植栽密度の標準モデル断面図と主たる植栽木の配置例

※1 相馬地区岩子など汀線から距離があり最前線が I-Bゾーンの場合や，相馬地区昼小屋の西側など汀線から距離がある I-Aゾーンでは，林縁 2~3列をクロマツで 10,000本/haとして，内部では 5,000本/haとしてよい。

※2 ヤマハンノキは将来の海岸防災林を構成する主林木ではなく植栽当初の肥料木である。

- ・原則として県内の森林の遺伝資源に悪影響を与えない苗木を使用する。
- ・将来、新たな知見をもとに樹種を選定する場合、「福島県野生動物の保護に関する条例」により指定されている特定希少野生動植物やレッドデータブックふくしま掲載種、侵入植物・帰化植物、地域個体変種、品種、つる性、健康に悪影響を与える種及びこれと紛らわしい種は選定しない。

表 2.4 基本樹種

エリア	I			II	
ゾーン	I -A		I -B	II -A	II -B
	犠牲林帯				
林帯幅	最低 30m 程度 (法面除く)		60m 程度 (管理道込)	60m 程度 (管理道込)	30m 程度 (法面除く)
植栽密度	10,000 本/ha		5,000 本/ha	5,000 本/ha	5,000 本/ha
犠牲林帯	アキグミ*1	-	-	-	-
標準樹種	優先 植栽 樹種	クロマツ			
		-	アカマツ		
	その他の 植栽 樹種*4	-	-	ヤマハンノキ コナラ オニグルミ*2	クヌギ ウワミズザクラ
肥料木*5 先駆性樹種	-	-	ヤシャブシ エノキ ケヤキ ヤマザクラ*3 カスミザクラ	ヤマハンノキ ケヤマハンノキ ハンノキ ネムノキ ヤマハギ アキグミ ヤナギ類の挿し木*6	

- ※1 最前線の内、飛砂に埋まる可能性のある場所（犠牲林帯）ではクロマツに変えてアキグミを植栽する。
- 2 オニグルミはアレロパシーにより、周囲の植栽樹の成長を妨げるおそれがあるため注意を要する。
- 3 ヤマザクラは交雑しやすいので周辺に保全すべき個体や個体群がある場合に植栽を控えるなど注意を要する。
- 4 その他の植栽樹種行のII-A及びII-Bゾーン列枠内の樹種名の字下げは、海岸林に自然侵入する広葉樹の海側からの相対的な侵入位置の目安である。
- 5 肥料木が主林木その他の標準樹種を、また標準樹種間で相互に被圧することがないように配植に留意する。
- 6 ヤナギ類は先駆性樹種で肥料効果は乏しい。

表 2.5 基本樹種に加えてⅡエリアで植栽可能な樹種^{*1}

区分	常緑樹		半落葉	落葉樹	
	針葉樹	広葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹
高木 ^{*2}		スダジイ ^{*4} アカガシ ^{*4} シラカシ ^{*4} シロダモ タブノキ ^{*4} ユズリハ			サイカチ アカメガシワ ^{*3} イタヤカエデ ヤマボウシ エゴノキ マルバアオダモ クサギ ^{*3}
中～亜高木		ヤブツバキ ヒサカキ カクレミノ ネズミモチ			ヤマグワ ^{*3} ノリウツギ マンサク サンショウ リョウブ ナツハゼ ニワトコ ^{*3}
低木		トベラ マサキ ヤツデ	オオバイボタ ^{*3}		ニシキギ ^{*3} ウリカエデ イボタノキ ^{*3} ムラサキシキブ ガマズミ

※1Ⅱエリアに植栽できるものとする。

2 高木：相双地方の気象条件において必ずしも高木とならない種を含む。

3 青字：アカメガシワ他は先駆性樹種

4 スダジイ、アカガシ、シラカシ、タブノキは、遺伝資源損失を防止するため、天然記念物や地域に残った天然記念物相当の個体や個体群の周囲への植栽は不可とする。また、これらの樹種は成長が遅いことに注意する。

(i) 最近の知見による方法

広葉樹の配植には次の3つの方法が知られているが、いずれも短期間、大面積の植栽には向いていない。

- ①生態学的混播・混植法（北海道工業大学，岡村俊邦「:生態学的混播・混植法の理論実践評価～住民参加による自然に近い樹林の再生法～」）
 - ②自然配植（高田研一，自然配植技術研究会）
 - ③宮脇昭氏が提唱する潜在自然植生に基づく土地本来の植生に合った樹木を密植する方法
- そこで、①の生態学的混植法を極めて簡易にした巣植え（ブロック植え）を表 2.9 に示す。ブロック植えは下刈りが増加するかもしれないが誤伐軽減～防止効果がある。

表 2.8 広葉樹（肥料木を含む）の配植パターン例と概要（5,000 本/ha）

名称, 肥料木割合	模式平面図	備考
正方・列状 肥料木 30% 区画：10×10m ○：主林木 ●：肥料木		<ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに肥料木，主林木を交互に植える
正方・群状 肥料木 25%		<ul style="list-style-type: none"> ・肥料木の部分だけ囲ったりしてわかりやすくする
正方・列状 肥料木 20%		<ul style="list-style-type: none"> ・列ごとに肥料木，主林木を交互に植える

名称, 肥料木割合	模式平面図	備考
千鳥・単木 肥料木 20%		<ul style="list-style-type: none"> 千鳥に植える 植栽位置に要目印

※他にもさまざまなパターンがある

表 2.9 広葉樹（肥料木を含む）のブロック植への例と概要（約 2,500 本/ha）

名称, 肥料木割合	模式平面図	備考
ブロック状 肥料木 20%	<p style="text-align: center;">海側</p> <p style="text-align: center;">陸側</p>	<ul style="list-style-type: none"> ブロック毎に主林木を植える 1 個体の木が健全に生育するために必要とする期待樹冠幅 5m程度 1 ブロック 5 本植え (1/5 が将来生存) 肥料木は陸側に 2m間隔で列状に 5 本植える 植栽密度は 2,500 本/ha <p>(「クロマツ海岸林に自然侵入した広葉樹の活用法ー松枯れから防災機能を守るための広葉樹林化ー」 p.32～33 を参考とした)</p>

(ii) 注意事項

- 苗木の種類別に植栽場所を色分けした目印を植栽場所に挿し、判別を容易にする。
- 旧土地利用が耕地の場合、肥料木は原則不要となる。